



大阪東ブロック 東成・生野支部  
 (有)ほくと総合保険 後藤 潔

## 東成区の歴史

- ・1925年(大正14年)4月1日大阪市の第二次市域拡張に生野区の歴史より大阪市へ編入。旧住吉郡域を除く東成郡の残余で東成区を新設。
- ・1932年(昭和7年)10月1日旭区を分離。
- ・1943年(昭和18年)4月1日生野区・城東区を分離。

発足当初は、現在の大阪市北東部の大半を管轄する広大な区でした。その後2度の区分により現在では浪速区に次いで面積の狭い区となりましたが、城東区、西区、阿倍野区に次いで4番目に高い人口密度です。

今里交差点は、ロータリーが無くなって半世紀が過ぎた今日になっても今里ロータリーと呼ぶ人が多いです。ロータリーは、昭和3年に設立された今里片江土地区画整理組合の事業のなかでの幹線道路事業として、都市計画街路が一点に集中し交差点をつくったことに始まります。昭和9年にロータリーは完成しています。当時は、信号も無く車は円を描くように流れていましたが、昭和30年に信号がつけられロータリーは無くなりました。今は、東成区を象徴する名称になっています。

昔、良質の菅の生い茂った深江の地に、笠を縫うことを職業とした大和の一族が集団移住したことが始まりと伝えられています。菅笠・菅細工などの伝統文化が現在も継承され、伊勢神宮式年遷宮に使用する菅笠を納めています。深江集落には、笠縫邑跡として史跡に指定されている深江稻荷神社、法明寺などがあり、茅葺屋根形状の家屋、蔵、地藏堂も多く見ることができます。

## 生野区の歴史

- ・1943年(昭和18年)4月1日東成区から生野区・城東区を分離。
- ・1955年(昭和30年)4月3日中河内郡巽町を編入。
- ・1973年(昭和48年)2月1日住居表示を実施。

文書に残る日本最古の橋である猪甘津橋(いかいつのはし)は、現在の生野区に架かっており、周辺に鶴が群れていることからその後「鶴の橋」と呼ばれるようになったとされ、現在の「鶴橋」の地名となりました。河川の埋め立てにより現在は橋がなくなりましたが、「つるのはし跡」の石碑がJR環状線の桃谷駅近くに建っており、橋脚の一部が残っています。

仁徳天皇・少彦名命(すくなひこのみこと)・押坂彦命(おさかひこのみこと)を主祭神としています。今から約1600年前の猪飼野は猪甘津(いかいのつ)と呼ばれ難波の入江の港であり、猪甘部(いかいべ※猪を飼育していた古代の官職。鷹甘部※たかかいべ、などと同じ)が住まわれていました。

また当時、川辺にあった灯明台1基が今も残されています。難波に都を定められた仁徳天皇は鷹狩の折などにたびたび当地の森にご休憩され、その由縁により御幸の森と呼ばれるようになった旨が社頭に建てられた由来碑に刻まれています。境内にある5本のムクノキ(棕)の老樹は『まちの貴重な緑をみんなで守っていこう』との願いから、市の保存樹林に指定されています。